

今日はコンサート気分で 第1回 1981.8.16 ザルツブルク音楽祭  
カラヤン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団演奏会

プログラム

今日は一夜のコンサートを、当日のコンサートで演奏された曲目順に聴いていただき、実際のコンサート気分を味わって頂こうという企画の第1弾です。

今回はザルツブルク音楽祭期間中の1981年8月16日に、ザルツブルク祝祭大劇場で行われたヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏会の模様をお聴きいただきます。

当コンサートでは、最初にこの2日前の8月14日に亡くなった大指揮者、カール・ベームを追悼して、モーツァルトの「フリーメイソンのための葬送音楽」が演奏されました。拍手なしで続く曲は、アンネ・ゾフィー・ムターの独奏で、ブラームスのヴァイオリン協奏曲です。この時、ムター18歳、カラヤン73歳でした。天才ぶりを遺憾なく発揮するムターの瑞々しい演奏は、今聴いても圧倒されます。休憩を挟んで、後半はドヴォルザークの交響曲第8番です。1973年の来日公演でも演奏されたカラヤンの得意曲のひとつですが、シンフォニックで活力みなぎる名演です。当日アンコールはありませんでしたが、アンコールとして、同じカラヤンの指揮で、ヨハン・シュトラウスの「ジプシー男爵」序曲をお聴きください。

モーツァルトの「フリーメイソンのための葬送音楽」は1785年に自ら加入していた秘密結社フリーメイソンの有力な結社員であった2人の死を悼んで書いた葬送の音楽です。ブラームスのヴァイオリン協奏曲は1878年に親友のヴァイオリニスト、ヨアヒムのために作曲された作品で、ヨアヒムの独奏、ブラームスの指揮で初演されました。技巧的にも音楽的にも大変優れた内容を持っており、古今のヴァイオリン協奏曲の最高傑作として知られています。ドヴォルザークの交響曲第8番は1889年に作曲されました。ボヘミア的な親しみやすい旋律が次から次へと溢れ出て来ますが、優れた構成と独創性を持った傑作です。ごゆっくり、当日のコンサートをお楽しみください。

\*\*\*\*\*

ザルツブルク音楽祭 1981.8.16 オーケストラコンサート

ヴォルフガング・アマテウス・モーツァルト (1756~1791) :  
フリーメイソンのための葬送音楽 ハ短調K.477(479a)

ヨハネス・ブラームス (1833~1897) :  
ヴァイオリン協奏曲ニ長調op.77

\*\*\* 休憩 \*\*\*

アントニン・ドヴォルザーク (1841~1904) :  
交響曲第8番ト長調op.88

アンネ・ゾフィー・ムター (Vn)

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団  
(1983.8.16 ザルツブルク祝祭大劇場でのLive)

〈アンコールとして〉

ヨハン・シュトラウス II 世 (1825~1899) :  
喜歌劇“ジプシー男爵”序曲

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団  
(1983.12.31 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)